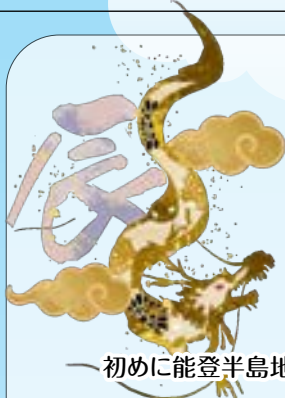


南京都病院だより

No.73 2024.1

南京都病院

<https://minamikyoto.hosp.go.jp/>
編集：南京都病院広報委員会



新年のご挨拶

さとう あつお
院長 佐藤 敦夫



— 初めに能登半島地震で被害を受けられた皆様に、心からお見舞い申し上げます。被害の全容がはっきりするにつれ、改めて被害の大きさを思い知らされます。NHOも地震発生直後よりDMATや医療チームの派遣、広域看護婦派遣、被災患者さんの受け入れなどの活動を行っております。今後も一刻も早い日常生活の再建に向けご協力を続けてまいります。

さて、昨年の皆様への挨拶を読み返しますと新型コロナウイルス感染症対策の只中で、不安を抱えたままの年初めであったことが思い出されました。幸い新型コロナウイルス感染症もある程度コントロールされ、阪神ファンにとっては38年ぶりの日本一にタイガースが輝いてくれたという滅多にないおめでたい一年となりました。あちこちで「久しぶりに甲子園球場に行って来たわ」という話も伺いました。当院でも、杉山博先生が副院長時代に出来た「杉虎会」という阪神応援会が盛大な祝勝会を4年振りに催しました。まだ完全に新型コロナウイルス感染症の流行が収まった訳ではありませんが、厳しい制限を続けていた日常生活が、やっと普通に送れるようになったことに安堵しております。

これからは、コロナ騒ぎで先送りになっていた様々な問題としっかりと向き合っていく必要があります。

医療介護の世界の問題に限っても、少子高齢化で危惧されていた人手不足問題が顕在化しています。これからがピークを迎える介護ニーズに対し、それを支える介護スタッフ、特に訪問介護を支える人材不足が深刻化しています。病院では、医師を中心とした働き方改革を進めることで、医師不足地域での救急医療からの撤退が危惧されています。看護師についても看護師を目指す人が減り、定員割れしてしまう看護学校が増えている様です。

人手不足に対し、デジタルトランスフォーメーション(DX)やロボットを用いた仕事の効率化で補おうとする様々な試みが本格化しています。見学に行った先進的な病院では、検体を乗せると自分でエレベーターのボタンを押して検査室まで運んでくれるロボットが試験運用されていました。

医療介護の世界は人と人との関わりが中心であり、中小規模の職場がほとんどです。DXを進めようとしても原資がなく、DX化する事で得られる利益も乏しかったため、DX化が遅れている職場でした。診察が終われば、待たずに会計が済み、すぐに調剤薬局で薬を受け取れたらいいなあ、医療情報が集約され、色々な病院で行われた検査などがどこでもすぐに確認できたらいいなあ、医療過疎のエリアで、遠隔診療が受けられたらいいなあなど、DX化によって色々な夢を描くことが出来ます。その一方で、自分の健康情報が他に漏れたりしないだろうか、DX化をネタにした詐欺に引っかからないだろうか、効率化によって人と人の触れ合いが減ってしまう事はないのだろうかなど心配事も尽きません。

私自身歳を重ねるにつれ、DXに伴う変化についていくのに、以前より遥かに労力を必要としていることに気付かされています。高齢化により人手不足となった社会が、果たして高齢者に優しいDX化を進めて行けるのか、しっかりと考えて行きたいと思います。



Event

健康フェアを開催いたしました！

広報委員会

令和5年10月1日(日)アル・プラザ城陽で「健康フェア」を開催いたしました。地域のみなさまの健康増進に役立てていただくことを目的に健康相談、骨密度・血圧・血管年齢測定、超音波診断装置(エコー)体験、治験の説明を行いました。また、キッズコーナーでは、白衣を着たお子さんたちと城陽市のゆるキャラ「じょうりんちゃん」と写真撮影を行いました。

参加したスタッフの感想を紹介させていただきます。

体験コーナー担当

はしもと しゅうじ

臨床検査技師長 橋本 修治

例年は「呼吸機能検査をしていたよね!」と参加者の数名からのお声に対し、「新型コロナウイルスが完全に終息していないので」とお伝えしました。そこで新企画は、エコー装置を使い子供さん向けでフルーツゼリーの中身当てを、大人の方には腕の血管とその流れ方に関して一緒に学習していただきました。ゼリーの中のみかんやブドウなど綺麗に描出でき、親御さんも共に喜んでくれて良かったです。血管の描出や血流も技師と一緒に画面を見ていただきました。参加者は150名を超える大盛況で、地域の方々が検査においても強い健康意識をお持ちであることを学びました。



キッズコーナー担当

いしばし じゅんこ

主任保育士 石橋 純子

「白衣を着て写真を撮りませんか〜?」の声かけに100人近くの子も達が撮影に参加してくれました。女の子は白衣に病院のロゴマークが入ったナースキャップをつけて写真撮影。注射器や聴診器を持って「じょうりんちゃん」と一緒に「はい!ポーズ!」かわいいキッズナースの姿に笑顔がこぼれ、にぎやかな撮影会となりました。撮影を通じて南京都病院の事、看護のお仕事に興味を持ってもらえるきっかけになればと思います。

今回、かつて小児科の診察に来られていたと思われる方達から「徳永先生や〜」とお声かけ頂く場面が多々ありました。レアキャラは「じょうりんちゃん」と「徳永副院長先生」だと思ったのが感想です。



健康コーナー担当

こやま ほのか

栄養士 小山 穂乃佳

栄養相談ブースは、常時数名の方が順番待ちをされており、地域の方々の、食生活に対する関心の高さがうかがえました。また、「この後の買い物で意識してみよう」と話される方もおられ、栄養相談が行動変容のきっかけとなったようです。商業施設で実施する、寄り道感覚で来られて、すぐ行動に移せるという良さを実感しました。一方で、お一人あたり10分程度と、深い話をするには少し時間が短かったようにも思います。

当院では、十分な時間を確保し、患者さん一人ひとりに寄り添う栄養相談・栄養指導を行っています。来院時にはぜひ気軽にご利用ください。



各コーナーたくさんの方にお越しいただきました。また、他の催しでアル・プラザ城陽にお越しになられていた城陽市長奥田 敏晴様もフェア開催を聞きつけて足を運んでくださいました。

今後も地域のみなさまの健康増進に役立てられるよう、継続してよりよい「健康フェア」を企画していきますので、ぜひご参加ください。

最後に、快く会場をご提供いただいたアル・プラザ城陽店様に、この場を借りまして御礼申し上げます。



城陽市長 血圧測定の様子

Topics

北海道医療センターとの職員交流について

同じ国立病院機構に属する、北海道医療センターと職員交流を行いました。当院から渡邊主任理学療法士が北海道医療センターへ行き、北海道医療センターから深井副看護師長がお越しくださいました。

北海道医療センターでの活動報告

わた なべ しゅんすけ
 南京都病院 主任理学療法士 **渡邊 俊介**

令和5年11月6日から10日までの1週間、北海道医療センターにて、神経筋疾患のリハビリテーションに関わる研修を受けさせていただきました。

北海道医療センターは令和2年8月に国立病院機構八雲病院と合併し、筋ジストロフィーと重症心身障がいの機能が移転され、現在は北海道医療センターの新棟西館に神経筋/成育センターとして機能しています。私は神経筋/成育センターのリハビリテーション科三浦理学療法士長に1週間ご指導いただき、多くの貴重な経験を積むことが出来ました。特に筋ジストロフィーを始めとする、神経筋疾患患者さんの理学療法評価や呼吸介助の方法、MI-E機器を使用した排痰方法を中心に学ばせていただきました。院内では筋ジストロフィー患者さんのADLやQOLを維持するために様々な取り組みがなされており、初めて見る光景の数々に圧倒された1週間でした。ここで得た沢山の経験や知識、技術を今後は南京都病院でも活かしていければと考えております。この度はこのような貴重な研修の機会を与えていただき、両病院のご関係者様に深く感謝いたします。



札幌医科大学校舎にて
 左 渡邊主任理学療法士 右 三浦彦理学療法士長

南京都病院での交流研修を終えて

ふかい ひろあき
 北海道医療センター 副看護師長 **深井 博昭**

11月13日から11月17日までの5日間の交流研修では、各病棟の見学や認定看護師との交流、呼吸リハビリテーションの見学、呼吸ケアセンターやカンファレンスへの参加、在宅HFT患者さんの退院後訪問への同行、呼吸器内科医師（坪井名誉院長、角診療部長）からの呼吸ケアに関する講義などさまざまな事を学ばせていただきました。その中で特に印象に残っているのは多職種が連携して行われる呼吸ケアカンファレンスが定期的開催されている事です。患者の状況を医師、看護師、栄養師、理学療法士、作業療法士、地域連携が1週間毎に各職種の



南京都病院にて 右 深井副看護師長

専門性分野を活かして、現状や問題点を共有の記録用紙に記載します。その情報をもとに今後の方向性を多職種でカンファレンスすることで、より良い医療・看護の提供に努めていました。当院でも南京都病院のように充実したカンファレンスを定期開催することで、より質の高い医療・看護を提供できると感じたため、ぜひ参考にしたいと思いました。

自施設では気づけなかった新しい考え方やシステムなどを知る良い機会となりました。今回研修に関わった南京都病院の皆様には大変お世話になりました。誠にありがとうございました。

地域連携 地域連携に力を傾けておられるみなさまをご紹介します

地域の皆さまの
「かかりつけ」クリニックとして

医療法人宝寿会
おうばく駅前内科クリニック

かんじょう
院長 山本 干城 先生



- 京都府宇治市五ヶ庄新開11-29-18 JR黄檗駅よりすぐ
- TEL.0774-33-2828 ● 駐車場：5台
- <https://www.oubaku-naika.com/>

診療時間

診療時間	月	火	水	木	金	土
9:00~12:00	○	○	○	○	○	○
16:00~19:00	○	○	○	○	○	／

13時~16時は在宅往診訪問診療

休診：土曜午後・日祝



当院は、おうばく病院の内科系サテライト診療所として2003年にJR黄檗駅前ロータリーすぐの場所に開院、地域医療に従事して参りました。20年目を迎えた2023年に3代目の現院長が就任し、「患者様・ご家族の想いに寄りそう診療」を基本理念として、地域医療への貢献を継続・発展すべくリニューアルオープンいたしました。

総合内科専門医、プライマリ・ケア指導医の院長の幅広い診療経験を活かし、高血圧・糖尿病などの生活習慣病、認知症・脳梗塞・パーキンソン病などの神経疾患、心不全・不整脈・狭心症などの心臓疾患、肺気腫・睡眠時無呼吸症などの呼吸器疾患など幅広い内科疾患に加え、整形・皮膚・感染症など分野にとらわれることなく、「とりあえずなんでも相談でき治療を受けられる」を目標に日々の診療を行っております。専門的な治療が必要な場合は京都府病院様をはじめとした地域の病院様と連携をとりながら、安心して生活を送っていただけるよう心がけております。また、外来診療だけでなく、在宅往診・訪問診療にも積極的に取り組んでおります。

これからも地域の皆さまから頼られる「かかりつけ」クリニックとして、努力して参ります。どうぞ引き続きよろしくお願いいたします。

健康で暮らしやすい
まちづくりのために

あさくら診療所

いっせい
所長 河本 一成 先生



- 京都府宇治市大久保町山ノ内19-1 近鉄京都線「大久保駅」より徒歩8分
- TEL.0774-46-5151 FAX.0774-46-5207
- <https://iryouseikyoku.jp/jigyosyo/shinryosyo.htm>

診療時間

診療時間	月	火	水	木	金	土
9:00~12:00	○	○	○	○	○	○ 第1-3
18:00~20:00	○	○	○	／	○	／

月・水・木の午前診療は予約制です

休診：木曜午後・土曜午後・日祝



1994年、やましろ健康医療生活協同組合あさくら診療所が設立されました。病気の時だけでなく、普段から地域の人たちが健康のことを考える場所を提供したい、というのが法人名に込められています。毎年6月から10月の間行われる宇治市、城陽市、久御山町の特定健診を900件以上行い、病気の早期発見、早期治療に力を入れています。

糖尿病、高血圧、高脂血症を中心とした慢性疾患医療では、心筋梗塞や脳梗塞といった動脈硬化性疾患の予防と癌の早期発見に取り組んでいます。循環器や脳神経内科、消化器内科、肛門内科の専門の先生に週1日ずつ非常勤で診療いただいています。実施できる日数は限られますが、腹部エコー、心臓エコー、頸動脈エコー、下肢血管エコーなどの超音波検査、胃カメラも行なっています。また患者さん自身に病気のことをよく知ってもらって治療の主役になっていただくために、疾患の学習会や医療懇談会にも取り組んでいます。高齢で通院困難になった方には往診、訪問診療を行なっています。

病院とは患者さんの紹介や病状悪化時の入院などで連携を取り合っています。今後とも地域の役に立つ診療所として歩んでいきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

認定看護師の ご紹介

令和3年12月より 皮膚・排泄ケア認定看護師が活動しています

皮膚・排泄ケア認定看護師 かた おか あかね 片岡 茜

当院は、拘縮や骨突出等により褥瘡(床ずれ)を形成し易い入院患者さんが少なくありません。褥瘡は「軟膏を外用しておけば治る」という創傷ではありません。そのため、予防や早期治癒には、医師、看護師、薬剤師、栄養士、リハビリテーション科スタッフで構成されるチーム医療が必要となります。皮膚・排泄ケア認定看護師は、その中心を担っています。ストーマ(人工肛門・人工膀胱等)を保有されている方や、排泄に問題を抱える方に対しては、その方々の生活に合わせて、物品の選択・日常生活のアドバイス等を行っています。

令和4年度からは、院外でも活動しています。褥瘡を保有した状態で退院した患者さんのご自宅を訪問し、ご家族や訪問看護師さんと、環境調整やケア方法の見直しを行っています。皮下組織に至る褥瘡を保有する患者さんであれば、当院がかりつけでなくても、担当医師の指示でご自宅に訪問することができます。是非、ご相談ください。



Topics 院内行事

停電検査・消防訓練 実施報告



院内で実施しました秋の各行事について報告いたします。

10月28日(土)に院内全館停電検査を実施しました。病院で停電が発生した場合を想定して非常電源へとスムーズに移行すること、移行後に異変やトラブルがないかの確認をを各部署の職員で行いました。電気が止まってしまうことは病院にとっても致命的で、万が一発生した際には、患者さんに影響を及ぼさない職員の行動が重要となってきます。呼吸器疾患を主な診療機能の一つとする当院では、酸素投与や人工呼吸器装着の患者さんが多数おられ、その影響を顕著に受けるため、正しい知識をもって迅速かつ冷静に対応することを各職員が心がけ訓練に臨みました。当日は大きなトラブルも発生せず無事に終了しました。

また、11月22日(水)には消防訓練を実施しました。今回の訓練は、勤務する職員数が少ない夜間帯で西2階病棟からの出火を想定して、ベッドで療養されている患者さんなどをどのように避難させるか、また消火・避難をそれぞれ担当する職員の役割や責任者への連絡体制など細かなことにも気を配りつつ、各職員が対応を迅速に行いました。当日は城陽消防本部青谷消防分署様立ち会いの下、消火器や防火扉等院内の設備を使用して実施し、「職員の対応が迅速で感心した」とお褒めの言葉もいただきました。訓練後は、消火器の使用方法についてもレクチャーいただき、水の入った消火器で模擬放水も行いました。

今後も患者さんや病院の安全のため、各行事を職員全員で積極的に行っていきたいと思っております。

最後にご確認いただきました方々に、この場をお借りして御礼申し上げます。



新任医師のご紹介

内科

2023年11月1日着任

内科 医長 橘 洋正

たちばな ひろ まさ

〈専門分野〉呼吸器内科(結核、非結核性抗酸菌症、呼吸器一般など)

〈認定・専門医等〉日本内科学会 認定内科医、日本内科学会 総合内科専門医、日本呼吸器学会 呼吸器専門医、日本呼吸器学会 呼吸器指導医、日本結核・非結核性抗酸菌症学会 結核・抗酸菌症認定医

2023年11月から再び南京都病院でお世話になることになりました。呼吸器センター(内科部門)にて呼吸器の疾患を中心に診させていただきます。呼吸器一般の様々な疾患に対応してまいりますが、特に肺結核・肺非結核性抗酸菌症の診療に力を入れてまいりたいと思います。南京都病院は結核病床が実稼働している京都府下では数少ない病院です。また近年非結核性抗酸菌も増加傾向であり、今後ますます診療の必要性が高まってくるのではないかと思います。今後とも微力ながら山城地域の地域医療に尽力してまいりたいと思います。



小児科

2023年11月1日着任

小児科 医師 渡部 基信

わた なべ もと のぶ

〈専門分野〉小児科一般、睡眠障害、小児心身症

〈認定・専門医等〉日本小児科学会 小児科専門医、公認心理師、臨床心理士

2023年11月より南京都病院で小児科医として勤務しております。私は、今まで病院の小児科1人医長として、地元山城地域で17年余勤めてきました。今度また地元の病院である南京都病院で、地域医療のお仕事ができることを大変嬉しく思っています。この病院は重症心身障害児者の方が数多く入院され、なかには昭和の時代から入院されている方もいらっしゃいます。この病院で長い間紡いでこられた医療を継続できるよう、日々鋭意努力致しますのでご指導のほど、何卒宜しくお願い申し上げます。

独立行政法人国立病院機構
南京都病院

〒610-0113 城陽市中荊原 11 番地
TEL.0774-52-0065 FAX.0774-55-2765

時間外緊急時 TEL.0774-52-0642

https://minamikyoto.hosp.go.jp/

当院は在宅療養あんしん病院に登録しています。詳しくはかかりつけ医にご相談ください。

〈地域医療連携室〉

TEL.0774-52-0191(直通) TEL.0774-52-0065 (代表)

FAX.0774-58-0270

月～金 8:30～19:00 (土日祝休み)

E-mail: 407-renkei@mail.hosp.go.jp

※予約状況を確認し、その場で受診日時をお返しいたします。なお、お時間を要する場合は折り返しお返事させていただきますのでご了承ください。

診療科のご案内

- | | | |
|--------------|--------------|---------|
| ● 内科 | ● 脳神経内科 | ● 呼吸器内科 |
| ● 消化器内科 | ● 循環器内科 | ● 小児科 |
| ● 外科 | ● 整形外科 | ● 呼吸器外科 |
| ● 皮膚科(入院のみ) | ● リハビリテーション科 | ● 放射線科 |
| ● 心臓内科(入院のみ) | ● 歯科(入院のみ) | |

交通のご案内



- 近鉄京都線 新田辺から 京阪宇治バス約15分
 - JR 学研都市線 京田辺から
 - JR 奈良線 山城青谷から 徒歩 20分
- 各駅より送迎車あり



南京都病院だより
2024年新年号アンケート
docs.google.com

今後の紙面の参考にアンケートにご協力ください。左のQRコードからアクセスし南京都病院だよりを読んだご意見ご感想をお寄せください。